

令和2年度 第3回原村総合計画審議会

- 1 日 時 令和2年9月28日(月) 13:30~16:43
- 2 場 所 役場3階 講堂
- 3 出席委員 小平恒夫会長、野明晃副会長、半田裕委員、百瀬嘉徳委員、北原貴穂委員、永田せつ子委員、小林英夫委員、宮坂早苗委員、小倉輝久委員
- 4 説明者 五味武彦保健福祉課長、三澤光晴子ども課長、平出彰子子育て支援係長、伊藤弘文総務課長、小池典正住民財務課長
- 5 事務局 伊藤弘文総務課長、阿部祐子企画振興係長、小池祐貴企画振興係員、行田裕貴企画振興係員
- 6 欠席委員 清水武義委員、石川高明委員、斎藤志穂委員
- 7 議 事  
野明副会長 定刻により会議を開会する。  
はじめに小平会長よりあいさつをお願いします。  
小平会長 4年に短縮される後期基本計画(案)について、内容を審議いただきたい。  
はじめに(1)第5次原村総合計画後期基本計画(案)の審議方法について説明をお願いします。  
伊藤総務課長 ((1)第5次原村総合計画後期基本計画(案)の審議方法について説明)  
小平会長 説明のあった内容で審議を進めることとしてよいか。  
(異議なし)  
それでは審議に入る。(2)ア 基本目標3「健康としあわせを誇れる健康・福祉・子育ての村づくり」についてお願いします。  
五味保福課長 (3-1-1から3-1-2について説明)  
小平会長 質問はあるか。  
半田委員 3-1-1の健康ポイントの導入についての検討はどうか。  
五味保福課長 健康ポイントについては富士見町でも導入事例はあるが、健診費用を村で負担していることから計画案には記載していない。(現時点で実施予定なし)  
半田委員 若い世代に対しても健康ポイントは魅力的な施策になると考えるが。  
五味保福課長 受益者からの負担も検討している。  
伊藤総務課長 情報の伝達手段としてLINEを活用することを現在検討している。  
小平会長 地域包括医療推進協議会とはなにか。  
五味保福課長 村の健康診断や予防接種などの進め方について協議いただいております、住民、診療所、保健福祉事務所長が参加している。  
小林委員 達成指標の42.0%の母数はなにか。  
五味保福課長 国保の加入者が母数である。  
小平会長 3-2-1から説明をお願いします。  
五味保福課長 (3-2-1から3-2-2について説明)

小平会長 質問あるか。  
生活支援コーディネーターとは具体的にはどのような方か。

五味保福課長 介護を受ける方とサービス提供者の間に入る方で例えば保健福祉課職員、社会福祉協議議会職員、在宅サービス事業のワーカーの方などである。

半田委員 検証シート P. 12 の介護予防教室延参加者数 2,216 人は計画案の現状値と違うが理由はあるか。

五味保福課長 検証シートの評価値 2,216 人については確認する。

宮坂委員 検証シートの評価値は計画案の現状値とは異なるものであり、いつの時期の数値であるか分かればよいのでは。

半田委員 検証シートの評価値は計画案の現状値になっているものか。

伊藤総務課長 評価値の関係については確認する。

小平会長 3-3-1 から説明をお願いします。

五味保福課長 (3-3-1 から 3-3-2 まで説明)

小平会長 質問はあるか。

小倉委員 現状の地域活動支援センターの利用人数は。

五味保福課長 3 名。

半田委員 ボランティアは月毎の状況を延べて 0 名か、純粹に 0 名なのか。

五味保福課長 純粹に 0 名。

半田委員 ボランティア受入れの呼びかけは行われているか。

五味保福課長 夏休みの子どもの体験の場においてそうした呼びかけをしているが現状では 0 名となっている。

半田委員 地域活動支援センター単独でのボランティア数を評価として見ていくか。

五味保福課長 目標値としては、地域活動支援センターにおける募集を行っているため、センター単独のボランティア数を評価として見ていきたい。

宮坂委員 P. 85 の障がい者に対する理解の促進について、子どもについては学校教育の中で進んでいるが、大人や地域社会では現在進んでいないと感じる。4 年後にはどのようなかたちになるよう進めていくのか。

五味保福課長 地域支えあいマップ作成時にどのような支援が必要になるか地域の中で話を進めており、今後もそうした形で啓発を進めていく。障がい者の方の活動の場として作業所があるが、こちらへ収入の面での自立支援もしていく。

宮坂委員 障がい者が暮らしやすい村にするためには、地域が学習や交流をする機会が必要と考えるがどうか。具体的な行動をお願いしたい。

五味保福課長 検討し、推進できる体制をとりたい。

小平会長 3-4-1 から説明をお願いします。

伊藤総務課長 (3-4-1 から説明)

平出子育係長 (3-4-2 から 3-4-3 について説明)

小平会長 質問あるか。

宮坂委員 3-4-1 について専門相談員 4 人はどのような方になってもらいたいどのような体制になってもらいたいと考えるか。

- 阿部企画係長 現在は女性2名。昨年までは男性1名、女性3名。相談体制等が現状に合っていないと思われる。相談体制の見直しでは、既婚者の方に相談員をしてもらいたいと考えている。
- 伊藤総務課長 4人は、気軽に相談しやすい方、結婚相談員としての知識を深めていただいた方を考えている。
- 宮坂委員 相談しやすい体制を整えば相談者も増えるかもしれない。ぜひ相談体制を整えていただきたい。
- 半田委員 前期計画では、相談所の開催を増やす目標となっていたが、開催よりは相談件数の方が適切ではないか。
- 伊藤総務課長 現状を鑑みるに、まず相談体制の充実を目的としたい。
- 小林委員 利用者にとって相談しやすい体制は、行政では難しいと考える。婚活有料サービスへの補助等も効果的ではないか。民間との連携も重要と考える。
- 伊藤総務課長 行政が婚活事業を実施するのなかなか難しい側面がある。いただいたご意見をもとに婚活事業の在り方について検討したい。
- 半田委員 3-4-2について、育児相談件数とは。
- 平出子育係長 健康づくり系の母子保健で行った件数である。なお昨年度、子ども課では900件ほど相談を受けている。
- 小倉委員 子育て支援センターについての検討結果は、センターの内容について公開されているのか。センターの現状はどうか。
- 三澤子ども課長 地域住民が関わることができる運営方法の要望があり、在り方については現在も個別に意見をいただいているところもあるが、今後の検討課題になってくると考える。
- 小倉委員 意見集約方法について、どのように考えているか。
- 三澤子ども課長 今後検討していきたい。
- 小倉委員 施設はその内容に基づいて建てるのが大切である。
- 小林委員 子育て支援センターについての話し合いについては、近隣市町村の状況を見るなど、まずその中身について話し合い、検討を行った。
- 小倉委員 内容については知らされていない。
- 半田委員 答申の内容も可能な点は公表してもらえればと思う。
- 小倉委員 造ったあとにできないことがあってはならない。そうしたことを含めたプランを立てて検討してもらいたい。
- 三澤子ども課長 今年度中に基本設計を作成予定であり、住民のみなさんに周知しながらご意見をいただきたいと考えている。
- 小平会長 基本目標3について審議を終了する。  
15:10まで休憩とする。  
再開する。  
イ 基本目標5「皆が活躍できる持続可能な村づくり」について説明をお願いする。

伊藤総務課長 (5-4-1 から 5-4-2 について説明)

小平会長 質問はあるか。

半田委員 5-4-2 について、住民とのパートナーシップは、行政側も住民側も不十分であると感じる。住民側への働きかけも必要である。

伊藤総務課長 行政と住民が考えを共有した形で進めていきたい。

宮坂委員 先端技術の導入とは、どのようなものを考えているのか。

伊藤総務課長 P. 124 に記載のある先端技術が代表的なものと考えている。

半田委員 人材育成基本方針について、職員への周知等、活用がなされているか。

伊藤総務課長 周知等はできていないと思っている。  
今後目指すべき職員像についてなど、方針の見直しを経て周知したい。

小林委員 基本方針の下に人事評価制度などの運用につながっているか。  
人材育成・人事制度の整備を丁寧に進めてほしい。

伊藤総務課長 人材育成はこれまで手がついていなかった部分と考えている。  
今後はきちんと体系づけ、職員が理解して取り組んでいく。

宮坂委員 基本目標 5 には、SDG s の 16 番「平和と公正をすべての人に」を入れた方がいいのでは。

伊藤総務課長 今後検討したい。

小林委員 組織改編が目標でいいのか。組織を改編することは手段ではないのか。

伊藤総務課長 住民ニーズに即した組織改編が必要だと考えている。  
指標の文言については、検討したい。

小平会長 5-5-1 の説明をお願いします。

小池住財課長 (5-5-1 から 5-5-2 について説明)

小平会長 質問あるか。

百瀬委員 財政力指数は重要な指数であると考えるので、達成指標に追加するのはどうか。

小池住財課長 目標値の定め方が難しいが、指標への追加については検討したい。

半田委員 達成指標としての村税の収納率について、99%の維持は大変だと考えるが、地域経済循環率を指標としてみてはどうか。

小池住財課長 99%は維持するとして、収納率の指標はこのままとしたい。

伊藤総務課長 今回のプロジェクトは、地域経済の見える化が目的であった。  
地域経済循環率を指標として設定するのは難しいと考える。

小倉委員 財政基盤の強化について、今回のコロナの影響が今後でてくると思う。  
普段からの財政情報の発信・見える化が必要と感じる。

小池住財課長 財政情報の開示を工夫していきたい。

宮坂委員 新たな財源確保について、地域経済の循環に関して村からの支出の削減なども考えていきたい。地域経済に関する視点の追加を希望する。

小池住財課長 記載内容を検討したい。

小平会長 村の自主財源について、ふるさと納税についてはどうなっているか。  
ふるさと納税などの自主財源の確保に努めていただきたい。

伊藤総務課長 令和元年度は、600万円弱の金額であった。  
クラウドファンディングなどの視点も持って取り組んでいきたい。

半田委員 重要業績評価指標と達成指標の違いはあるか。

阿部企画係長 総合戦略のKPI（重要業績評価指標）は国の手引きによる。総合計画の達成指標は、従前のものを使っている。

半田委員 KPIは100%、OKRは6、7割の達成と考えているが。

伊藤総務課長 どちらも達成すべきものと考えている。  
（資料の提出について）

小平会長 その他あるか。

阿部企画係長 今回は、10月9日（金）午後1：30から

伊藤総務課長 二酸化炭素排出量削減への取り組み推進について要望をいただいている。  
今後、この点も含めてご審議いただきたい。

野明副会長 以上で、閉会とする。（16：43）